

米国の大学教授市場の構造

—「大学院社会学科案内」の分析を中心に—

有本 章 (大阪教育大学)

I 研究意図と方法

科学社会学 (sociology of science) の最近の研究動向を整理すると、①科学の内容や学説、②科学と科学社会の関係、③科学社会の構造と機能、④科学社会と一般社会の関係、などが扱われていることが分る。マートン学派を中心とした「科学社会の社会学」はこれらのなかで③のアプローチに立脚しているが、そこではいわゆる「科学のエトス」(R.K.Merton)の現実妥当性の検証が科学社会における、①褒賞体系の研究、②引用の研究、③学術研究網の研究、などにおいて展開されてきた。そして、H.Zuckerman, J.Cole, S.Coleらの研究によって解明された事実は科学社会には「エリート科学者」を中心にしたピラミッド型階層構造が形成され、「科学のエトス」にいうような「ユニバーサリズム原理」とは対照的な「パティキュラリズム原理」が根強くはたっている現実である。

そのような科学社会の現実を踏まえると、科学者や研究者の拠点となっている大学社会においても共通の現象が認められるはずであり、「エリート大学」を中心とした大学のヒエラルヒーが成立することが容易に理解できる。しかし、J.Ben-David, J.Gastonらの科学社会の国際比較研究によって指摘されているように、科学社会や大学社会のピラミッド構造は決して一律なのではなく、その国の社会構造、学術研究体制、大学制度、文化などを反映してさまざまな様相を呈することも否めない。

本研究は、日本の科学社会学、大学の社会学、大学人の社会学、の領域の先行研究においてほとんど欠落していると言ってもよい米国の科学社会と大学社会に焦点を当て、その特質の一断面を大学教授市場ないし大学市場に投影された階層構造の実態を分析することによって基礎的に明らかにしようと試みるものである。考察の主眼は①閉鎖的ピラミッド型階層構造の実態、②市場構造の柔軟性・開放性・競争性、③市場構造と学問的生産性の関係、④ユニバーサリズム原理の有効性、などにかかれる。

研究方法は「大学院社会学科案内」(American Sociological Association, Guide to Graduate

Department of Sociology, 1975) に依頼して、これを基礎資料として、その集計、整理、分析を行なうものである。この資料には、学科名、教員名、教員の職位・学位取得校・専攻分野、学生数、授業料、学位授与数、などが記載されているが、教員の性別や年齢の記載はない。したがって資料として制約があるが、ここでは大学市場の分析に主眼があるので、教員の所属校と学位取得校が主要な要因であり、それらの数量的分析を行なうことになる。

発表内容は1.大学市場の成層 [(1)大学成層の州別比較, (2)大学市場占有率], 2.大学の質と市場勢力 [(1)大学の質評定, (2)大学の質と社会移動, (3)系列校, (4)自校関, (5)学問的生産性], 3.結論、によって構成される。本発表要旨では紙幅の関係で1の(1)と(2)に限定した記述のみを行なうことにしたい。

II 結果の考察

1 大学市場の成層

(1) 大学成層の州別比較

日本では首都への大学集中があまりに顕著であるため、しばしば大学の地方分散が問題となるが、米国の場合は首都や特定の州への集中現象は認められない。広大な国土を背景にした地方分権主義が大学社会においても定着している事実の一端がそこに示されているといえるであろう。しかし、大学院社会学科によって形成される大学市場の実態を量的に比較考察するとき、日本のように極端な偏在現象は見受けられないものの、州間には歴然とした格差の存在することも見逃せない事実である。

たとえば、大学院博士課程を有し、Ph.D.を授与している大学は全国で112校ほど数えられる。これらの各州への配分割合をみると明らかに州間格差が認められる。表1に示されるように、単独で4校以上の大学を擁している州は全国5州(ワシントンD.C.を含む)のなかでわずかに9州(ニューヨーク、カリフォルニア、マサチューセッツ、オハイオ、イリノイ、ペンシルバニア、テキサス、ミシガン、ワシントンD.C.)にすぎない。とくにニューヨークの割合が大きく、これにカリフォルニアとマサチューセッツを加えた上位3州の総数(29校)の全体に占める割合は25.9%、さらに上位9州の総数(58校)の割合は51.8%になる。このように上位3州に4分の1、上位9州に2分の1の大学が存在する反面、アラスカ、アーカンソー、アイダホ、メイン、ニューメキシコ、ノースダコタ、サウスカロライナ、ヴァーモント、ウェストヴァージニア、ワイオミングの10州には博士号を授与する大学は1校

も存在しない。

表1に示されるように、学校数だけでなく、教員数、学生数、博士号授与数、の指標で比較するとき、全米で指導的な州を形成しているのは、ニューヨークとカリフォルニアを二大拠点として、それにマサチューセッツ、イリノイ、ミシガン、オハイオ、ペンシルバニア、インディアナ、テキサス、の名州、さらにウィスコンシン、コロラド、ノースカロライナ、ワシントン、の名州が加わることが分る。

(2) 大学市場占有率

これらの州では大学市場で大きな勢力を誇る大学が存在し、相互に競合している。まず、教員数の規模をみると、1校当りの教員数の平均値は18.0名となるが、1校当り30名以上の大規模校は10校ある（ウィスコンシン、イリノイ、マサチューセッツ、ペンシルバニア、インディアナ、コロラド、ラトガーズ、ミネソタ、ワシントン州立、SUNY (Stony Brook)）。以上のなかで私立大学はペンシルバニアのみであるから大規模校は州立大学に集中している。量的に州立大学が優位にある傾向は学生数にも同様にみられる現象で、1校当り学生数の平均値は53.8名であるのに、100名を超えるものか11校ある（ウィスコンシン、ミシガン、コロラド、シカゴ、セント州立、テキサス、ペンシルバニア、CUNY、バークレー）。このなかで、コロンビア、シカゴ、ペンシルバニア以外は州立（または市立）大学である。教員数や学生数では州立大学が圧倒的に優勢であるが博士号授与数や大学市場における教員占有率では、私立大学が大きな比重を占めていることが注目されるであろう。

たとえば、大学教授市場占有率によってそれを確認すると、全体（2053名）中のシェアは次の順位になる。①シカゴ（8.4%）、②ハーバード（5.6%）、③ミシガン（5.2%）、④コロンビア（5.0%）、⑤ウィスコンシン（4.9%）、⑥バークレー（4.7%）、⑦コーネル（3.6%）、⑧ノースカロライナ（3.1%）、⑨オハイオ州立（3.1%）、⑩ミネソタ（3.0%）。ここでは、シカゴ、ハーバード、コロンビア、コーネルなどの私立大学が上位に登場するのが特徴である。これらの大学は社会学教授市場でピラミッドの上層に位置しているといえるが、先述の指導的州と照合させると、ニューヨーク州のコロンビア、コーネル、カリフォルニア州のバークレー、マサチューセッツ州のハーバード、イリノイ州のシカゴ、ミシガン州のミシガン、などが符合し、拠点州の拠点大学になっていることが認められるといえる。

表1. 社会学科の規模の州別比較

州名	校数	教員数	学生数	PhD授与数
ニューヨーク	13	204	808	67
カリフォルニア	9	155	612	52
マサチューセッツ	7	129	405	36
オハイオ	6	113	374	39
ペンシルバニア	5	112	267	34
イリノイ	5	100	368	62
ミシガン	4	99	353	38
テキサス	5	81	220	21
インディアナ	3	68	189	29
ノースカロライナ	3	61	148	12
コロラド	3	59	180	19
W.D.C.	4	59	124	7
ワシントン	2	58	185	16
ウィスコンシン	1	57	190	25
アリゾナ	2	50	80	1
ユタ	3	49	92	6
アイオワ	2	47	107	16
ニュージャージー	2	44	109	11
ミズーリ	2	43	109	15
コネチカット	2	40	104	9
フロリダ	2	37	118	14
テネシー	2	35	80	14
メリーランド	2	32	75	17
ミネソタ	1	32	65	17
カンザス	2	31	14	6
ジョージア	2	29	75	8
ヴァージニア	2	29	63	6
オクラホマ	2	24	74	9
ルイジアナ	2	23	45	7
ケンタッキー	1	22	35	5
ロードアイランド	1	19	71	5
デラウェア	1	17	17	0
ハワイ	1	17	63	2
オレゴン	1	16	62	7
ネブラスカ	1	14	29	5
アラバマ	1	11	9	0
モンタナ	1	9	12	3
ニューハンプシャー	1	9	29	2
ミシシッピ	1	8	20	3
ネバダ	1	7	15	3
サウスダコタ	1	4	26	2
計	112	2053	6021	654

(資料) ASA Guide to Graduate Department of Sociology, 1975.

注(1) 50州に Washington D.C. を追加。校数0の州は省略。

(2) 博士課程のみを対象